

令和の幸手スタンダード授業 5

— 全ての子どもたちの可能性を引き出す —

幸手市教育委員会学校教育課
(令和6年度改訂)

●これまで以上に個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援します ●子供が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整し、探究的な学びを創出します

主体的・対話的で深い学びを実現する授業 ～ゴールを明確にしてブラッシュアップ～



子どもたちの学びを確実に見届ける授業 ～子どもたちとのふれあいは授業中にこそある～

- 授業に向かう挨拶ができていますか？
- 授業に入る気構え・心構えができていますか？
- 学習の用意はできていますか？

I

- 『学ぶ準備はできているか』 ⇒ 学が意欲を高める
- 学が気構え・心構えをつくることで、本気で授業に臨むようにする。
(授業に向かう『挨拶』、『姿勢』、『学習の用意』等)

心のスイッチ

II

- 『何を学んでいるのか』 ⇒ 課題や見通しをもたせる
- 『問いを見つける力』を高め、子供が自ら学習課題を設定できるようにする。
 - 対話によって協働を生み、思考を深める。
 - 子供が自ら、学習課題を追究できるようにする。

問題・課題を知る

- 問題・課題が何であるかを明確に捉えているか？
- 『課題を解決したい』という思いを強くもっているか？
- 支援が必要となるのは誰か？

III

- 『問題・課題をどう解決していくのか』 ⇒ ひとりで・みんなと・先生に
- 多様な形態（一人、ペア、グループ等）で、思考を深める。
 - 多様な方法（話し合い、既習事項を活かす等）で、考えを繋ぎ、紡ぎ、学びの輪を全体に広げられるようにする。

一人で考え、共に深める

- 教科等の特性に応じた活動に参加しているか？
- 集中できているか？戸惑いや放棄の原因は？
- 根拠に基づいて自分なりの考えをもっているか？
- 友達の考えを基に自分の考えを深化・修正できているか？
- 自他の考えを活かしながら解決を目指しているか？
- 友達と積極的に意見を交流・検討しているか？

IV

- 『何が解り、できるようになったのか』 ⇒ 目標から達成度を押さえる
- 子供が自ら、分かったことをまとめられるようにする。

まとめ

- 課題に対する納得解・最適解を、自分の言葉でまとめているか？

V

- 『何を、どのように学んだか』 ⇒ 自分の取組を振り返り、次に生かす
- 子供が自ら、学びを自覚化できるようにする。

振り返り

- 分かったこと、できるようになったことを明らかにし、学びの過程を振り返っているか？
- 友達との関わりにも触れながら、自己の変容を感じているか？

最低5分！

定着・発展

探究学習 ～「みんなで同じことを同じように」からの脱却～

- 自分なりの問い立て、やり方、答えを引き出すようにする。
- 先生や仲間との確かなフィードバックを行うようにする。
- 教師は、「探究」のサポート、ガイド役に徹する。



家庭学習 ～指導の個別化と学習の個性化～

- 授業で学んだことを定着・活用できるようにする。
- 各々の特性・学習到達度に応じた課題を提示する。
- 各々が興味・関心のある内容にも取り組ませる。



“教師の凡児徹底” 誰一人取り残さない授業の土台（教師としての心構え）

教育のプロフェッショナルとしての気概

- ① 幸手教師五者の心
(指導者・伴走者・演出者・先導者・経営者)
- ② VUCA時代でも変化を恐れず、何事にも積極的にチャレンジ
- ③ 自分にしかできない仕事だという自負
- ④ 時流を捉える高いアンテナ
- ⑤ 常に学び続ける主体性



授業準備・環境を整える

- ① 静かさや落ち着きのある風景づくり
- ② 授業デザインは、深い教材研究と子供の理解から
- ③ 授業設計は、ゴール⇒山場⇒導入へと逆向き設計
- ④ 支援が必要な子供への、より重点的な指導・支援の準備
- ⑤ 特性や学習進度等に応じた、柔軟な学習活動の提供



率先垂範⇒教師も絶えず前進！

- ① 教師の豊かな表情は、子供を安心させ、思考を柔軟にします。
- ② さすが先生と思わせる専門性の高さが意欲をかきたてます。
(教師も光る授業を！)
- ③ 音声は心に残り、板書はノートに残ります。
- ④ タブレットは必要条件であり、十分条件です。
- ⑤ 机間指導等（見取り・支援）が、最も忙しい時です。

